



自治医科大学における卒後のワークライフバランス支援 —取り組みと調査結果—

自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 牧野伸子（大阪10期卒）

今回のニュースレターには、現在取り組んでいる卒後のワークライフバランス支援（J-PASS: Jichi Post graduate self-Affirmation Support System）について説明、紹介させていただきます。またこのJ-PASSについて、日頃からご協力いただいている皆様には、心より感謝申し上げます。



全国的な傾向と同様に、本学においても卒業生女性医師や医学部女子在学生在が年々増加しています。女性医師には女性特有の結婚・出産・育児といった様々なイベントが付随することがあり、さらに本学卒業女性医師の多くが、義務年限の遂行時期と重なり、不安を抱くものも多いのが現状です。そのような流れの中、平成20年から「卒後ワークライフバランスについて考える会」としての活動を、卒後指導部、卒後指導委員会、地域医療推進課が連携して継続してきました。また、近年は男性医師においても、医師としてのキャリアを伸ばすために、ワークライフバランスについての様々な葛藤を乗り越えることが必要とされています。そのため、女性医師だけでなく男性医師にも役立つように、「育児のあるなしにかかわらず、男女ともに、それぞれのワークライフバランスを保ちながら、将来の自分自身のキャリアを見据えて、今の自分自身を肯定して、楽しみながら人生を進んで行ってほしい」というメッセージを添えて、J-PASSとして活動を展開しています。

最も重要な目的は、意識改革であり、女性医師の抱える、結婚・出産・育児といった様々なイベントに対しては、単に「乗り越えるべき壁」ではなく、「経験できる得難いチャンス」であると捉えることができるようなサポートをしています。女性医師においても男性医師においても、生活の一部として仕事を捉えることができることを目指しています。

具体的な活動内容としては、①卒業生の講演会と医学生を交えた懇談会、②女性医師支援ブロック担当者会議の開催（地域で後進の相談相手となれるような卒業生女性医師の育成）、③個別聞き取り調査（全国各地の女性医師の勤務先を訪問し、勤務・生活についての聞き取り調査を行い、学生に対して卒業後の不安解消・義務年限の過ごし方の事例を提示する）、④都道府県別訪問調査（各都道府県内の女性医師のネットワークを強化する）、⑤女性医師支援ブログの開設、⑥ニュースレターの配信、⑦リレーエッセイの配信、⑧メッセージ集の発行等です。活動の評価は、アンケート調査等の手法を用いて行ってきました。具体的には、女子医学生に対する意識調査（2013）、卒後10年～15年の卒業生女性医師に対する就業についての調査（2014）、結婚協定締結卒業生医師に対する意識調査（2016）、講演会出席者に対するアンケート（講演会・懇談会時に毎回実施）等があります。まず、医学部女子学生を対象に行ったアンケートでは、女子医学生の約7割が、義務年限中に結婚・出産を考えていること、自治医大卒業生の縦のつながりをメリットと考えていることがわかりました¹⁾。また、卒業生の就業継続に関するアンケート調査結果では、義務年限終了後も女性卒業生医師は、約8割が常勤の医師として勤務を継続し、「好きだから」という前向きな理由で科を選び、自己満足度に関するスコアでは、8割以上の高い値を示しました^{2) 3)}。さらに、結婚協定を締結した医師へのアンケートでは、生活の満足度に自分の出身地か相手の出身地かによる大きな違いはなく、上司が良き相談者である場合に生活の満足度が高くなることがわかりました⁴⁾。

現在は、自治医大と地域の両輪でサポートしています。自治医大では卒後指導部や卒後指導委員会で、卒業生はもとより、医学生等の卒後に関してサポートを行い、地域では地域で活躍する中心的な役割を担う女性卒業生がブロック担当となり、ワークライフバランスのとり方等のアドバイス、意識改革を行っています。

少しずつ根気よく展開してきた活動ですが、日本全国で活躍するたくさんの卒業生の頼りになるシステムに育てるには、まだまだ力が足りません。これからも、自治医大のために、後進の皆様のために何か少しでもお役に立てるよう努力したいと思っています。今後とも皆様からのご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

参考文献

- 1) 石川由紀子、牧野伸子、山本さやか、石川 鎮清、松村 正巳: 卒前教育におけるワークライフバランスに関するニーズ分析. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 2016;39:19-22
- 2) 牧野伸子、仲摩恵美、吉村成子、竹内三春、雲井悠里、河原奈麻美、石川由紀子、牧野伸二、松村正巳: 自治医科大学女性卒業生を対象とした就業継続に関する調査結果. 月刊地域医学 2016; 30:462-466
- 3) Makino N, Makino S, Ishikawa Y, Yamamoto Y, Matsumura M: Relationship between career anchors, choosing specialty, and life satisfaction among female physicians. Sch J App Med Sci 2016;4:4468-4472
- 4) Nakamura T, Makino N, Ishikawa Y, Kojima K, Yamamoto S, Yamamoto T, Arai Y, Watanabe A, Yoko K, Yokotani T, Shiraishi, Y, Toeda M, Sadakane A, Mieno M, Ishikawa S: Life satisfaction for rural practice in both own and partner's home prefectures. Jichi Medical University J 2017;40:9-15



育児のあるなしにかかわらず、男女ともに、
それぞれのワークライフバランスを保ちながら、
将来の自分自身のキャリアを見据えて、
今の自分自身を肯定して、楽しみながら人生を進んで行ってほしい

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先: 地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

https://grad.jichi.ac.jp/